

2026年 5月
株式会社 加島美術

河鍋暁斎の初公開作品 65 点、秘蔵の名品《惺々暁斎団扇絵聚画帖》も 「かい しゅう ざぶ ろう 權 舟三郎コレクション」による肉筆画と版画の展覧会

6月13日(土)より加島美術にて開催



加島美術（東京・京橋）では、2026年6月13日（土）から6月28日（日）まで、幕末・明治に活躍した絵師・河鍋暁斎の画業に迫る展覧会「かい しゅう ざぶ ろう 權 舟三郎コレクション 暁斎が描いた浮世のことも 一肉筆画と版画でたどるその画業一」を開催いたします。

本展では、国内屈指の河鍋暁斎コレクター・研究者である藤田昇氏が長年にわたり蒐集し、暁斎の幼名「甲斐周三郎」にちなんで自身が名づけた「かい しゅう ざぶ ろう 權 舟三郎コレクション」の中から選りすぐりの作品を展示。肉筆画・版画あわせて167点のうち、65点に上る作品が東京では初公開となります。なお本展は、加島美術による日本美術の普及に向けた取り組みの一環として開催するもので、観覧無料、作品販売を行いません。

河鍋暁斎は、狩野派の伝統技法を正式に受け継いだ保守本流の絵師でありながら、一方で、庶民の娯楽である浮世絵などの版画作品も数多く手がけています。本展では、肉筆画と版画を暁斎芸術を形づくる重要な表現として位置づけ、「美とモード」「花鳥風月」「戯画・狂画・諷刺画」など全14のテーマに沿って双方をあわせて展示し、暁斎芸術の幅広さと奥深さを多角的にご紹介します。多彩な作品群を通して、暁斎の多様でユニークな表現の全体像をお見せするとともに、当時の社会情勢や人々の価値観を暁斎がいかにか描いたのかという視点から、その人物像にも迫ります。

藤田昇氏が、長年にわたり河鍋暁斎への深い情熱をもって築き上げた「かい しゅう ざぶ ろう 權 舟三郎コレクション」は、一個人によるコレクションとは思えないほど充実した内容を誇ります。藤田氏の眼差しを通して暁斎芸術に触れる本展が、河鍋暁斎という稀代の絵師の再評価を促すとともに、日本美術への関心をさらに広げる機会となりましたら幸いです。

河鍋暁斎とは



* 藤田昇氏所蔵写真

幕末から明治にかけて活躍し、“画鬼”とも称された絵師・河鍋暁斎（1831-1889）。幼少期に浮世絵師・歌川国芳に絵の手ほどきを受け、11歳で駿河台狩野家の画塾に入門後19歳まで学び、以降も流派を問わず様々な技法を糧にして独自の画風を築き上げました。幕末から明治という激動の時代を生きた暁斎は、人々の暮らしや信仰、娯楽、風俗など、市井に生きる人々の関心や願いに応えながら、実に多種多様な題材を描き続けました。圧倒的な画技と自在な発想によって生み出された作品群は、今日なお多くの人々を魅了し続けています。

展覧会の見どころ

1 65 点の初公開作品を一挙公開

「権舟三郎コレクション」から出展される作品のうち、65 点が東京で初公開となります。肉筆画は 60 点のうち 35 点、版画は 94 点のうち 30 点が初公開となり、これまで広く紹介される機会の少なかった作品を多数紹介します。

なかでも画工が手がけた大津絵から念仏鬼が現れるという名工譚を題材にした《大津絵戯画》は、本展が全国初公開となります。



《大津絵戯画》

2 新発見・初期の画風を伝える肉筆画《鴛鴦図》初公開



《鴛鴦図》

河鍋暁斎は、生涯に数千点にも及ぶ作品を制作したとも言われています。しかし、その画業初期にあたる 20 代前半の肉筆画は現存数が極めて少なく、詳細はほとんど明らかになっていません。本展では、このたび新たに発見された、20 代前半の肉筆画と推測される《鴛鴦図》を全国で初公開します。江戸狩野派の画風を色濃く残す本作は、暁斎芸術の最初期の画風をうかがうことのできる貴重な一作です。

3 技と情熱が凝縮された秘蔵の名品 《惺々暁斎団扇絵聚画帖》

肉筆の団扇絵 15 枚を収めた画帖《惺々暁斎団扇絵聚画帖》は、上質な画材を惜しみなく使い、細部まで描き込まれた極彩色の作品です。現存する肉筆団扇絵の画帖は他に例がなく、2019 年にサントリー美術館で開催された「河鍋暁斎 その手に描けぬものなし」展でも名品として紹介されました。

その他、《神功皇后 武内宿禰 見立端午節句人形図》《雪中鷺兎図》《巨勢金岡作画図》など、暁斎の深い教養と圧巻の画技を味わえる逸品が並びます。



《惺々暁斎団扇絵聚画帖 子供の三番遊び図》



《神功皇后 武内宿禰 見立端午節句人形図》

4 ユーモアあふれる版画の数々



《新板かげづくし 天狗乱舞》



《狂斎百圖 長いものはまかれろ》

河鍋暁斎の画業を語るうえで欠かすことのできない浮世絵や版本などの版画作品。

本展では、戯画や風刺画をはじめとする多様なジャンルの 94 点をご紹介します。欧米列強を揶揄したとされる《新板かげづくし》や、諺を題材にユーモアを交えて描いた《狂斎百圖》など、いずれの作品にも暁斎ならではのユニークな表現と人間味が色濃く表れています。これほどの数の版画を一室に鑑賞できる機会は大変貴重です。

展覧会図録販売



本展覧会の開催を記念し、展示作品全 167 点を収録した図録を販売いたします。全作品に藤田氏による解説を付し、作品の魅力や見どころへの理解をより深めていただける内容となっています。年譜・署名・印章の一覧も掲載した資料性にも優れる一冊です。



■仕様：176 ページ（全カラー）

■販売価格：1,000 円（税込）

■販売方法：

加島美術店頭

オンライン販売

*販売開始日は加島美術 HP 及び SNS にてご案内いたします。

図録に関するお問い合わせ先

Tel: 03-3276-0700

Mail: info@kashima-arts.co.jp

関連イベント

藤田昇氏と巡るギャラリーツアー

藤田昇氏による展示解説付きギャラリーツアーを実施いたします。作品の背景や見どころや時代背景、暁斎コレクション形成の経緯など、藤田昇氏の案内のもとギャラリー内を巡り、展示や暁斎の魅力をより深くご体感いただけます。

6月14日（日）13:00～／15:00～

6月21日（日）13:00～／15:00～

定員：各回 10 名 所要時間：約 30～45 分

参加費：無料 参加方法：事前予約制

会場：加島美術（東京都中央区京橋 3-3-2）

参加ご希望の方は下記までご連絡下さい（担当：笠井）

Mail: pr@kashima-arts.co.jp

Tel: 080-5497-8878

藤田 昇（ふじたのぼる）



1956 年群馬県桐生市生まれ。1988 年頃より河鍋暁斎の肉筆作品を中心とした蒐集を開始し、約 40 年にわたり蒐集・研究を重ねる。コレクションネーム「権舟三郎コレクション」は、暁斎の幼名「甲斐周三郎」へのオマージュとして名付けられた。2012 年から 2022 年まで、公益財団法人河鍋暁斎記念美術館において監事、理事、副理事長を歴任した。放送大学千葉学習センター、放送大学埼玉学習センターにて非常勤講師として講座を受け持つなど教育活動にも携わる。共著『河鍋暁斎挿絵（二）—教科書・啓蒙書ほか—』（河鍋暁斎記念美術館発行）のほか、同館研究誌『暁斎』に多数の論考を寄稿している。主な論文に「松浦武四郎と暁斎の交流」「暁斎門人への経歴と画業について」「鹿嶋清兵衛と河鍋暁斎の交流（一）（二）」などがある。河鍋暁斎研究と作品蒐集の両面から、その魅力の再評価と普及に尽力している。

開催概要

権舟三郎コレクション 暁斎が描いた浮世のこども —肉筆画と版画でたどるその画業—

会期中無休／観覧無料／販売無

会期：2026 年 6 月 13 日（土）～ 6 月 28 日（日）

営業時間：10:00 ～ 18:00

出展作品：167 点

会場：加島美術（〒104-0031 東京都中央区京橋 3-3-2）

主催：加島美術

※会場スペースの都合により、会期中に一部展示作品の入れ替えを行う場合がございます。あらかじめご了承ください。



地下鉄銀座線「京橋駅」出口 3 徒歩 2 分
地下鉄有楽町線「銀座一丁目駅」出口 7 徒歩 3 分
都営浅草線「宝町駅」A4 出口 徒歩 5 分
JR 東京駅 八重洲南口 徒歩 9 分

【画像提供について】

本プレスリリースに掲載している広報用画像の貸出が可能です。画像のご使用にあたっては、事前に掲載申請をお願いしております。媒体名・掲載予定日・使用画像をご明記のうえ、下記までご連絡ください。

【お問い合わせ先】株式会社加島美術 広報部 TEL: 03-3276-0700 Email: pr@kashima-arts.co.jp